

(倫理様式 2-2-1)

特定行為看護師による終末期患者への意思決定・在宅療養支援 ～早期 PICC 挿入から在宅看取りがなされた 1 事例～

1. 研究の対象

令和 6 年 4 月に当院に入院した、脳梗塞を併発した終末期癌患者で、特定行為看護師による PICC 挿入および在宅療養支援を受けた対象者 1 名

2. 研究目的・方法

① 研究の目的・意義

本症例報告の目的は、脳梗塞を合併した終末期癌患者に対して、特定行為看護師が実施した PICC 挿入及び在宅療養支援の実践を振り返り、その役割と有用性を明らかにすることです。近年、特定行為看護師には特定行為の実践だけでなく、医学的評価、意思決定支援、多職種連携および地域連携を含めた包括的な役割が期待されています。本事例では、終末期患者に対する PICC 挿入の適応を臨床倫理の視点から検討し、患者・家族の希望する在宅療養および在宅看取りの実現に向けた支援を行いました。

本症例の報告を通じて、特定行為看護師が急性期から在宅まで切れ目のない医療・看護の提供にどのように貢献できるかを明らかにし、今後の実践および教育に資する知見を得ることを意義としています。

電子カルテ、看護記録、退院支援記録、訪問看護との連携記録等を用いて診療経過を振り返り、特定行為看護師による PICC 挿入、意思決定支援および在宅療養支援の内容について質的に分析します。研究期間は倫理審査委員会承認後から令和 8 年 5 月 31 日までとする

3. 研究に用いる試料・情報の種類

電子カルテ、看護記録、退院支援記録、訪問看護との連携記録等を用います。個人が特定される情報は用いません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

(倫理様式 2-2-1)

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部

研究責任者 塚田 晃裕

住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366

T E L：0270-27-8813 F A X：0270-24-3359